

看護いばらき



No.90
2010年9月20日



CONTENTS

- | | | | |
|---------------|------|-----------------------|------|
| ■平成22年度通常総会報告 | P2 | ■地区活動 | P8~9 |
| ■平成22年度職能集会報告 | P3 | ■第46回いばらき看護の祭典 | P10 |
| ■新役員紹介 | P4~5 | ■第41回日本看護学会－母性看護－学術集会 | P11 |
| ■常任・特別委員会活動 | P6~7 | ■協会からのお知らせ | P12 |

社団法人茨城県看護協会

平成22年度 通常総会報告

平成22年6月26日(土) 県民文化センター小ホール
出席者439名

平成22年度スローガン “看護の輪を広げよう ひとりの力を組織の力に”

平成21年度事業報告及び平成22年度事業計画案等 10議案可決される!

(社)茨城県看護協会は、平成22年度通常総会を6月26日(土)に茨城県立県民文化センターで開催した。

開会式では、会長のあいさつに引き続き、来賓の茨城県保健福祉部医療対策課長・山田保典様、茨城県病院協会副会長・横田廣夫様より祝辞を賜り祝電披露の後、当看護協会活動にご尽力頂いた18名に茨城県看護協会長賞が授与されました。

通常総会は、出席会員8,708(委任状9,241含む)名参加のもと、10時10分開会され、議長団として、茨城県子ども家庭課・関 律子氏、水戸赤十字病院・加司山良子氏、なめがた地域総合病院・森田町子氏の3氏が選任された。

議事録署名人に議長団から関 律子氏、会員から総合病院水戸協同病院・原田良子氏、茨城県結城看護専門学校・林 圭子氏、総合病院水戸協同病院・柏 富代氏の4氏が承認された。引き続き執行部より議案の説明や報告が行われ、質疑・答弁の後、提出された10議案すべてが原案どおり可決承認され、盛会のうちに終わることができました。

提出議案

- 第一号議案：平成21年度事業報告(案)
- 第二号議案：平成21年度決算報告(案)並びに監査報告(案)
- 第三号議案：新たな社団法人の骨子(案)
- 第四号議案：会館維持費にかかる定款改正(案)
- 第五号議案：茨城県看護研修センターの拡張(案)
- 第六号議案：平成22度スローガン(案)
- 第七号議案：平成22年度 事業計画(案)
- 第八号議案：平成22年度 収支予算(案)
- 第九号議案：平成22度役員・職能委員並びに推薦委員の選任
- 第十号議案：平成22年度日本看護協会通常総会代議員選出(案)



◀開会



会場の様子



▶議案審議



平成22年度 優良看護職員茨城県看護協会長表彰

受彰おめでとうございます。



記念撮影

今年度は、保健師3名、助産師1名、看護師13名、准看護師1名の方々が受彰されました。



お礼のことば



職能集会報告



保健師職能集会

保健師の専門性「保健指導」に焦点をあてて

保健師職能委員長 森田正子

「保健師の専門性を発揮するための資質向上をめざし、効果的な保健活動を実践する」を活動目標に、職能集会を開催しました。

平成21年度活動報告、「保健師の活動基盤に関する基礎調査」（茨城県の状況）結果報告、厚生労働省保健指導支援事業「保健指導ミーティング」報告、平成22年度活動計画について報告いたしました。

「保健指導ミーティング」は健康問題に気づき、解決に取り組んでいく保健指導を効果的に展開していくためのスキルアップをテーマにしており、行政・医療機関・産業・教育等 職域を超えての交流が図れる、看護協会ならではの強みを生かした活動をすすめています。

助産師職能集会

助産師のスキルアップを図るために

前助産師職能委員長 中島博子

助産師職能集会は、平成21年度の活動として「院内助産システムの推進に向けて助産師のスキルアップを図るために」助産師の知識、技術に関する調査や研修会を通しての取り組みを報告しました。その中で研修受講者は、知識の習得のみではなく演習主体の研修を要望していること等を確認し、平成22年度の取り組みの承認を得ました。

看護師職能集会

前看護師職能委員長 横田すい子

今年度は通常総会の午後に開催し多くの方の参加がありました。平成21年度の活動として「よりよく働き続けられる職場環境」をテーマに実施した研修・アンケート調査の結果を報告しました。詳細を是非職能集会冊子をご覧ください。次年度は、公益性を考慮した委員会活動のあり方や看護師の業務拡大等の重要な課題に対して、会員の方々と協同して取り組む必要があります。「よりよい職場環境の確立」のために委員会活動へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

新役員紹介

平成22年度 理事11名が選任されました。
新任・再任された方々を紹介いたします。

第一副会長

鈴木君江(再任)

県民の期待に応えられる看護協会

公益社団法人化を見据えた組織変革・強化と県民の期待に応え公益性を高める組織活動の準備第2段階の時。会員の皆様と情報交換を密に行い、看護職能団体として発展できるよう尽力します。



専務理事

太布和子(再任)

新たな社団法人にむけ、また、看護研修センターの拡張・新人看護職員研修等取り組まなければならない事が山積みです。

周りのみな様のご支援・ご協力があってこそ、看護協会の運営が進展します。
精一杯務めますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



常任理事

小角和子(新任)

新たな看護協会を目指し

会員にとって、また地域にとっても身近で頼りになる協会となるよう微力ながらお役に立ちたいと思います。

皆さんのご協力を願いいたします。



助産師職能委員長

樺谷厚子(新任)

今こそキャリアアップ

周産期医療を取り巻く環境の変化から、助産師への役割期待が急激に高まっています。院内助産や助産外来を導入し助産師として自立することが望まれています。

このような変革期に助産師職能委員長の役割を担うことに不安ではあります。皆様と共に課題に取り組んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



看護師職能委員長

江幡恵子(新任)

看護職の能力を發揮できる環境を

看護職は、人々の期待に応え安全で安心な質の高い看護が提供できるよう日々努力しています。

看護師職能委員会として、看護職が専門職としての能力を高め、その力を十分に發揮できる環境づくりに向けて努力してまいりたいと考えています。



水戸・ひたちなか地区理事 原田良子(再任)



地域のニーズに対応した保健活動を目指して

地域の人たちが健康で安心して暮らしていくよう、各施設の強みを活かし保健活動を実践していきます。

日立・常陸大宮地区理事

金子美智子(再任)



顔の見える連携作りと看護のレベルアップ

地区活動を通して、施設間の顔の見える連携作りに努めます。

また、看護事例発表会や研修会の機会を活用し、各自が自己研鑽の場となるよう計らい、地区全体の看護のレベルアップに貢献したいと思います。

鉾田・潮来地区理事

後藤みよ(新任)



就任にあたっての抱負

地区会員数は平成22年4月1日現在で892名であり、昨年に比べ111名増加が見られました。

今年度も引きつづき施設代表者等から開業医・介護・福祉分野等にも働きかけることで更なる増加を図り、地域の資質向上と連携強化、課題解決に繋げられればと考えております。

竜ヶ崎地区理事

佐瀬悦子(再任)



「まちの保健室」を常設して—健康や生活の質の向上に向けて—

竜ヶ崎地区活動の一環として「まちの保健室」を常設して5年が経過する。その中で地域で看護活動を展開するためには住民や対象としている人々の立場に立ってニーズを共有し、健康や生活の質、QOLの向上に向けて、また互いの力量形成に向けてパートナーとなっていくことが大切と思われます。看護職が地域の人々からの期待に応えられるよう地区活動を通じ、看護職の役割を果たすよう努力していきたいと考える。

理事

岡根せつ子(新任)



～がんばろう!!～

行政にいた経験が協会の発展に寄与できないものか考え中です。

皆様と一緒に種々の問題に取り組んでいきたいと思っています。

よろしくお願ひ致します。

理事

藤田けい子(新任)



現場主義を第一に…

看護師の役割拡大、看護基礎教育の年限延長など看護は変革を求められています。

理事の一人として、それらを臨床の看護サービスの質向上にどのように反映させるかを課題にしたいと思います。

平成22年度

常任・特別委員会活動

7月6日合同委員会が開催されました。村田会長から委嘱状が交付され、常任委員等を継続して引き受けてくれた方、また、新しく委員になられた方々です。今回の合同委員会では、平成22年度の各委員会で委員長、副委員長が互選で選出され、今年度の活動について話し合いました。常任委員会・特別委員会・地区委員会の委員長と活動をお知らせいたします。これからもよろしくお願ひいたします。

社会経済福祉委員会

委員長 黒江悦子



働き続けられる職場環境をめざして

当委員会は、労働条件の改善等会員の社会経済福祉の向上を目的としています。本年度は、皆さんに実施してきた離職等に関する調査結果について情報提供すること、看護職をとりまく労働環境と課題について理解を深めること、その中でニーズを把握することを目標に活動します。ご協力宜しくお願ひ致します。

教育委員会

委員長 宮内和代



専門職業人としてのキャリア形成につながる研修をめざして

新人教育・ブラッシュアップ教育のうち、58研修を企画しました。看護実践能力に応じた学習段階設定をしましたので、キャリア形成に役立てていただきたいと考えております。皆様の参加をお待ちしています。

業務委員会

委員長 大槻勝明



チーム医療の推進と看護師の役割に関する実態調査

平成22年3月19日(厚生労働省)チーム医療の推進に関する検討会では、「看護師はチーム医療のキーパーソンとなる」と役割期待がもたれています。そこで、チーム医療、および看護師の役割について実態調査を行うことにしました。

広報委員会

委員長 古橋淳子



魅力ある紙面作りを目指して

今年度の活動目標としては、興味ある話題を提供し、美しく見やすい紙面作りを目指します。また現地取材を通し、会員の皆様の声を反映した記事を提供していきたいと思います。

学会委員会

委員長 小澤尚子



今年度の茨城県研究学会は、平成23年2月19日(土)、茨城県立県民文化センターで開催されます。テーマは「学び合い、育ち合う」です。物事を調べ、考え、真理を探り、その学びを共に成長して行きたいという願いからつけました。

会員の皆様の原稿をお待ちしています。

準備委員会

委員長 青木建二



準備委員は茨城県看護協会の研修が円滑に行われるよう教育委員の協力を得て会場準備などの活動を行っています。参加者の方々がよりよい研修を受けられるよう努力していきます。

何かありましたらお声をかけてください。

推進委員会

委員長 深澤千映子



推薦委員会は、委員6名からなり、「看護協会の活動を理解し、その任務を遂行できる人材を推薦する」活動目標を掲げ、協会活動を支える為、理事、各職能委員長や職能委員、推薦委員に適任と思われる人材を選考し、協会に推薦する役目を果たしたいと考えております。

介護保険・地域訪問看護推進委員会

委員長 根本美津子

**訪問看護の推進と質の向上及び、医療・介護・福祉との総合的な連携を図る**

多様な在宅医療のニーズに対応できるような訪問看護を目指し、ケアマネジャーも含め広く地域で働く看護職との連携、特に特養施設の看護職にも参加を呼びかけて研修を企画。

2年目となる訪問看護サポート事業の後方支援も引き続き行う計画である。

医療看護安全対策委員会

委員長 篠崎はつえ

**医療安全のための体制構築を目指して**

当委員会は、KYT、メディカルセーファーなど現場に即した医療安全の知識を深めるための研修や医療安全担当者が地区別活動の輪を拡大できるような交流会を企画しています。また、茨城県との共催で平成23年2月6日に、医療安全研修会を開催します。これらに多くの施設からご参加いただき、県内医療機関の安全向上に繋げたいと願って活動しています。

災害看護検討委員会

委員長 志賀久美子

**災害支援ナースの登録増加を目指す**

「災害看護マニュアルの見直し」「災害支援ナース研修・フォローアップ研修」の充実、「防災訓練の参加」を通じ、被災地のニーズに応じて柔軟な活動が実践することが出来るように目指します。



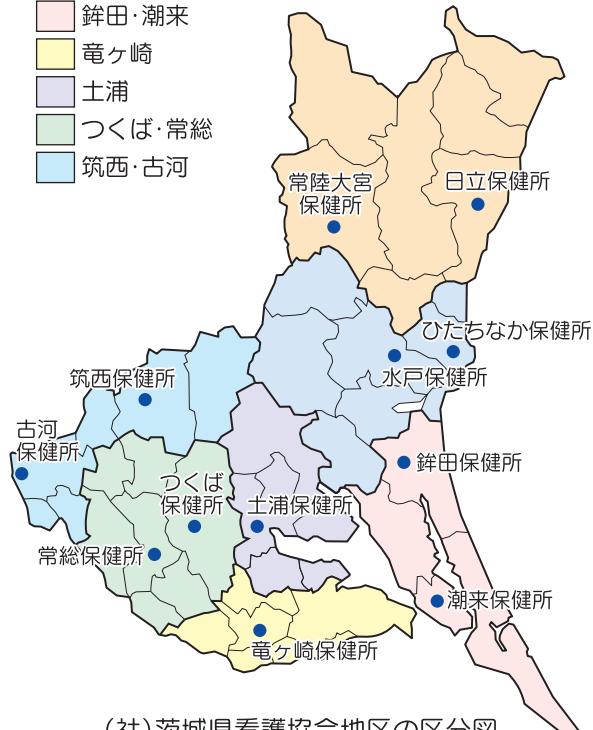
まちの保健室の活性化

茨城県看護協会が公益法人に向けて準備を進めていますので、日立・常陸大宮地区においても、今年度は公益性の高い「まちの保健室」を活性化させようと計画いたしました。

その時期の医療状況に合わせて毎月のテーマを決定し、2つの施設の看護師2名が担当いたします。テーマによっては他の医療職の方にもご協力をいただくこともあります。

地域の皆様は勿論のこと、施設間の交流にも繋がることを期待して活動を展開いたします。

- 水戸・ひたちなか
- 日立・常陸大宮
- 銚田・潮来
- 竜ヶ崎
- 土浦
- つくば・常総
- 筑西・古河



(社)茨城県看護協会地区の区分図



地区内の交流を目指して

今年度の活動目標は、「看護職の質の向上を図り、地域のニーズに対応した保健活動を展開する」をあげました。各職種の人たちとも協力して、地域の方が健康で安心して暮らせる活動を展開したいと思っています。

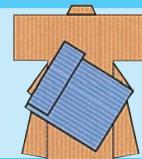
また地区研修を開催し、会員だけでなく各施設の看護職の交流が深められるよう活動したいと思っています。



会員間の交流と資質向上を目指して

今年度の目標は、1)関係機関及び地域との連携を図り、専門職としての資質向上に努める。2)会員間の交流を深め、会員増を図るとしました。

「まちの保健室」として、「かしま祭り」に参加、研修会として「フィジカルアセスメント」と及び、「終末期における患者さまとのコミュニケーション技術」を学ぶことで、専門職として患者さまへより適切な支援ができるることを期待しております。



筑西・古河 地区

筑西・古河地区理事 野口 敬子

地区研修会の充実に向けて

地区会員から、近くで学習する機会が持てるることは、とてもありがたいとの声が多い。いつも50名～60名ほどの参加者がいる。地区内の研修は、子育て中でも往復の時間が短縮されるため、参加しやすいと好評である。

今後も地区研修会の充実に向け、地区内のアンケート結果をもとに検討し、意欲ある地区にしていきたい。



土浦 地区

土浦地区理事 野口美恵子

地域が一体化した地区活動を目指して

土浦地区では、昨年に引き続き「地域のニーズに対応し、地域住民・看護職が互いに実感できる活動を目指すことと「活動は、協会員だけではなく広く看護職に広報し地域の専門職としてのレベルアップを図る」に決定した。

土浦地区(土浦市・石岡市・かすみがうら市・美浦村・阿見町)の協会員は8月現在1642名である。いずれも協会員は皆何事にも熱心で、今年で3回目を迎える地区懇談会(10月7日)も、各施設から協会や地区に対する活発な意見や要請が寄せられると予想される。



つくば・常総 地区

つくば・常総地区理事 白川 洋子

新たな看護の予感

日本経済は久しく右上り成長からは遠く、また一方では地球環境の変化を驚異のごとく感じることを禁じえない状況にあります。

このようななかで看護に大きな地殻変化の余震を感じるのは私だけでしょうか。

看護の主体性を見据えたこれからのかの看護教育と看護実践の融合、医療全体を捉えるなかでの看護の役割等、大きな課題に直面し、国民から期待される職能集団であることを自覚しなければなりません。

地区活動は情報の発信源であり、地域連携機能を有しています。それぞれの施設の壁を越えて、同じ医療を担うものとして、共有と創造を大事にしながら地区会員の連帯を強め、地域の人々に認知されるよう活動していきたい。



竜ヶ崎 地区

竜ヶ崎地区理事 佐瀬 悅子

安全に過ごせる生活環境の提供

平成22年度地区活動は、常設している「まちの保健室」の活動の中で、他職種との連携を密にし、栄養士や理学療法士の参加も予定している。健康や生活の質の向上に向けて活性化を図りたいと考えている。

また、今年度は研修会のテーマを「認知症高齢者のアセスメントの重要性を理解する」とした。各施設、また在宅においても認知症の方が非常に多く、その人らしい生活を実現するために、日常生活の支援方法の応用スキルを学び、安全に過ごせる生活環境の提供ができるようにと考えている。

第46回 いばらき看護の祭典

平成22年5月23日(日) 県民文化センター大ホール
参加者: 1,270名

～看護の心をみんなの心に～

金管楽器の音色が会場内に響きわたり、リズミカルな曲と振りで小学生とは思えないほど力強い演奏とともに看護の祭典が始まりました。看護学生によるキャンドルサービス、その炎の一つ一つには看護に対する志が感じられました。

開会式では、主催者挨拶として、茨城県看護協会の村田昌子会長は、看護師不足の問題を協会の重点事業とし、有資格者の再就職に向けたワークライフバランスを考慮した働き方の見直しなどに積極的に取り組んでいると話された。続いて、橋本昌茨城県知事より茨城県では本年7月からドクターヘリの運行を開始するなど、救急医療体制の整備にも積極的に取り組んでおり、また、この祭典を契機とし、県民の皆様に「看護の心」が広く浸透し、看護についての理解と関心が深まるなどを祈念しているとのお言葉を頂きました。

特別講演は、「スイッチ・オンの生き方—遺伝子が目覚めれば人生が変わるー」村上和雄(筑波大学名誉教授)先生のお話がありました。参加者からは、「笑いは大切」、「もっと笑おう」と思ったなど、笑いには計り知れない大きな力があると感じたという声が聞かれました。

オープニング



石川小学校



結城看護専門学校

表彰



★茨城県知事表彰

県内の看護職員として献身的な活動を続け、看護業務の向上発展に貢献された方を対象に、茨城県知事より7名の方が表彰されました。

◆看護エッセー入賞者表彰



心温まる多数の作品の中から、9名の方が受賞されました。



～受賞者からの声～

●受賞の声を聞いて驚きました。将来、看護師になりたいと思い、看護の素晴らしさが少しでも伝わればいいと思いました。

●今回の受賞を光栄に思っておりまます。亡くなった母が応援してくれたお陰で受賞できたと思っております。

第41回 日本看護学会－母性看護－学術集会

みんなでつむぐ 未来への懸け橋 ～受け継がれる いのちに寄りそって～

7月29日、30日の2日間、つくば国際会議場で開催されました。

村田昌子学術集会長のあいさつで開会式が始まり、橋本茨城県知事や市原つくば市長を来賓に迎え、会場には全国各地から多くの方が参加されました。口演42題、示説70題と合わせて112題に対し、会場からは180近く質問があり活発に意見が交わされました。

● 教育講演Ⅰ

「増えるやせ妊婦」では、幼少期からの食生活やライフスタイルについて妊娠を機に変化させることの難しさ、至適体重や栄養指導など助産師が取り組む課題について講演がありました。

● 教育講演Ⅱ

「新生児ケアサポート」は、新生児の親がNICUに入院したわが子を自らの力で育てていけるように力をつけるのを支え助けるために必要な、尊厳と尊重・情報の共有・家族ケア参加・家族との協働という4つの概念についてお話をありました。

● 交流セミナー

「院内助産システム」は、日本の産科医療は地域や施設格差が大きく、よりよい助産ケアの提供のためにはどうすればよいのか、院内助産システムに関わる不安・疑問や課題など、参加者との意見交換がありました。



◆シンポジウム

「地域と共に医療を考える」をテーマに、住民が安心して快適に、自分の意思決定が生かされる医療にするために、地域で取り組んでいる事例が紹介されました。市民公開講座として、地域の方々と共に考えることのできる時間となりました。

◆特別講演

「いのちをつなぐ“ことば”」をテーマに、相田みつをさんの作品を用いて、いのちに寄り添う「ことば」の持つ意味についてお話をいただきました。会場の参加者からも、「いのちの大切さをどう伝えるか、いろいろ考えさせられた」という声も聞かれました。

オープニング

県立水戸第二高等学校



素晴らしい歌声とダンスで楽しめていただきました。



▲会場の様子



▶示説会場



協会からの
お知らせ

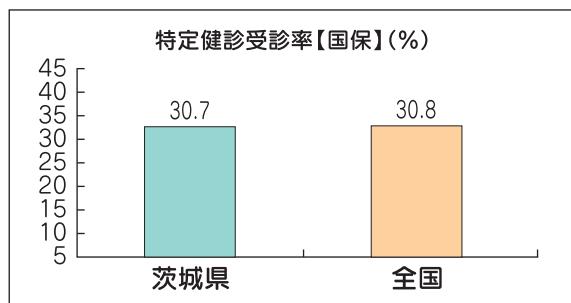
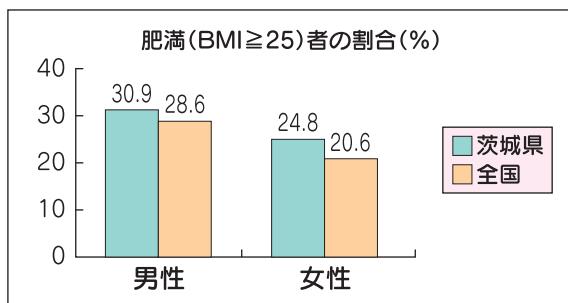
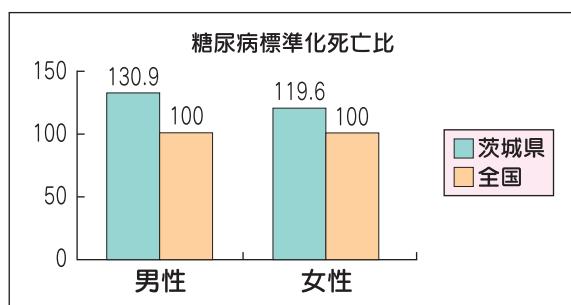
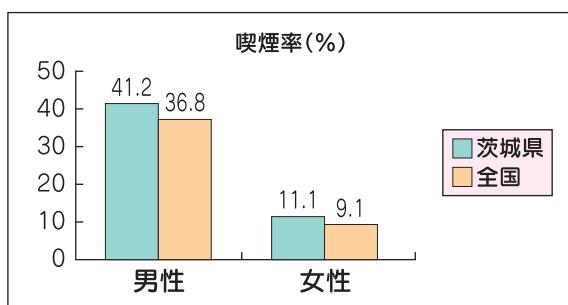
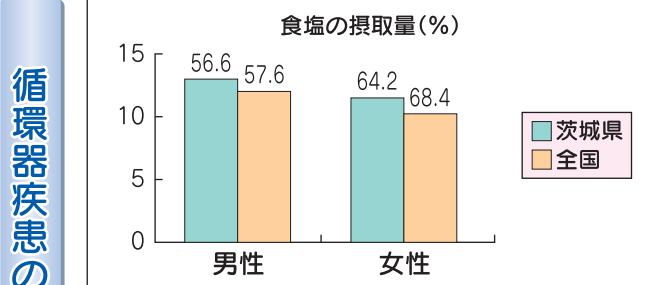
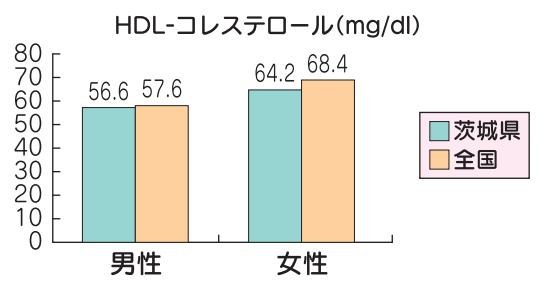
9月は循環器疾患予防月間です

茨城県では、心疾患や脳血管疾患などの循環器疾患や糖尿病などの生活習慣病による死亡率が高いことから、9月を「循環器疾患予防月間」と定め、「1に運動 2に食事 しっかり禁煙 最後にクスリ」をスローガンに、生活習慣病の予防に関する普及啓発に努めています。

そこで、今回は、「茨城県における循環器疾患の状況」についてご紹介します。

循環器関連疾患 死亡率の状況

死因	標準化死亡比			
	男	全国順位(高い順)	女	全国順位(高い順)
脳血管疾患	119.8	5位	116.4	5位
心疾患	108.1	10位	107.1	9位
糖尿病	130.9	2位	119.6	4位



《出典》 茨城県の値：H21年茨城県市町別健康指標Ⅲ（H19基本健康診査年齢調整平均値 HDL-コレステロール値）

H19年度茨城県総合がん対策推進モニタリング調査結果

全国の値：H20年国民健康・栄養調査報告（HDL-コレステロール値のみH19年）



今年度より、広報委員をさせていただくことになりました。
今年は、猛暑！この暑さに耐えかね、北極の氷も、とうとう我慢しきれず、泣き出しちゃったそうです。新米広報委員ですが、皆さんに「看護いばらき」を情報源の一つとして読んでいただけるよう頑張っていきますのでよろしくお願ひいたします。

広報委員 高橋 令恵